

祝

度量衡器販賣

鉈屋商店

電話六番

書籍と運動具

トツピ堂書店

電話二三〇番

逢萊泉、玉桂

關谷釀造合資會社

電話二九番

祭

辻村養鶏場

電話一一五番

傘、はき物

中島屋商店

うどん、そば、丼物

三河屋

電話二四五番

禮

生鯉、鮮魚、鮭

天野魚店

電話五七番

砂糖と紙雜貨

和泉半商店

石版と活版

河合印刷所

電話一四九番

處力調劑 藥品一般

三原屋藥局

大原紋三郎
電話三番

行三輪車 各種

當古屋商店

釀造元

清日嶽 日野屋商店

電話二〇番

昭和十一年十月十四日正十二時始 (雨天順延)

富永神社祭典奉納

能組

於新城能樂殿

能組

加

辻村一夫 伊藤昭助 今泉利助

茂

安藤三郎 伊藤政光 森田義雄

金子謙治 鈴木星石

中島幾太郎 今岡壽孝

間御田

神主長田安吉

早乙女原田嘉門 松井藤三郎 鈴木正一郎 鈴木正一郎 倉橋光次 天野友一郎

末廣

原田嘉門

天野友一郎 松井藤三郎

口真似

鈴木正一郎

山本幸一 加藤敏一

小袖曾我

中白中 野井尾 柴母 野青正 佐信 天野友吉 葦草夫重雄

間

鈴木正一郎

天野 糺 大原博

榊原金次郎

羽

舞雛子

衣

天野友吉 今泉虎之助 天野糺

山崎功

朝比奈

倉橋光次

長田安吉

竹

舞雛子

生嶋

天野政次 辻村一吉 大原正之 今泉利吉 山崎功

貴

智

天野友一郎

原田嘉門 倉橋光次

草紙洗小町

今助 泉木 利論 鈴木 安野 貫之 野當 長田 一郎 徳一郎

今岡 精一 天野 紉 柴田 昇三 大原 博

榎原 金次郎

問

弱法師

西尾 孫太郎 守屋 壽石

花子

長田 安吉

天野 友一郎 松井 藤三郎

鈴木 章三

黒塚

鈴木 庄吉

金子 謙治 長田 壽雪

中島 幾太郎 足立 重造

問

今岡 精一 原田 嘉門

井 碯

松井 藤三郎

加藤 幸敏

瓜 盜人

天野 林次郎

原田 嘉門

蟹 山伏

柴田 昇三

山本 幸敏

鞍馬天狗

伊藤 安藤 藤正 昭武 伊藤 安藤 藤正 昭武 伊藤 安藤 藤正 昭武

森田 義雄

長田 重秀 鈴木 星石

中村 源次郎 今岡 壽孝

問

松井 藤三郎

附祝言

能 梗 概

加 茂

皇座の室と都の加茂とは御一体の明神であるからとて、室の神職が都へ上つた、加茂川の岸まで来ると川原に清らかな壇を築き、注連を結び廻らして白羽の矢を立て、ある、その流れに下りて水を扱へてゐる二人美人が頻りにこの矢を教つてゐる様子であるから神職は其の謂を尋ねると、女たちは加茂の神話を告げ教へ、更に山の縁から都附近の名流づくしを面白く語り、今この神徳を告げん爲に現はれたのであるといつて消え失せる。(中人)暫くあつて女神なる下鴨の御祖の神現はれて自ら神徳を述べ給ふ所に、上鴨の別雷の神は山河草木を動搖させて來現し、或時は虚空に飛行し、或時は國土に垂跡して風雨を時に隨はしむる旨を明し給ひ、やがて御祖の神は紅の森へ、別雷の神は天空へお歸へりになつた。

小 袖 會 我

曾我十郎、同五郎兄弟は富士の卷狩に加はつて敵を討つ決心をした、それには母から勘當される五郎の事を申なだめ、思ひ残す事なく出かけた。と老母の許へ暇乞ひに行き、機會を計る爲に先づ十郎が内に入り母に對面し富士の狩場へ行くことを告げる、母は酒を勧めてこれを祝ふ、外に待つて居た五郎は十郎に促がされて乳母の春日の扇を取次として内へ入らうとするが母はそれを許さない、十郎は強ひて五郎を伴ひて母の前へ出て五郎を同道した主旨を説き亡父のことから細々と説き家には不吉な狩場へ行くをも願ひ給はぬかと恨み顔にて立出て様とするから、母は涙に咽びて兄弟を喚び止め先づ五郎の勘當を許した、二人は嬉し泣の涙にくれて盃を交はし共に立つて舞ひ必ず本望を遂げんと勇ましく出立した。

草 紙 洗 小 町

大伴の黒主は宮中の御歌會に小野小町を相手に定められたので到底勝ち難きを知り、小町が私宅に忍び入りて其の歌を吟ずるのを偷み聞きしてしまふ、而して小町が歌を萬葉集の古歌であると言ひたて、勝を占め様と企てる

(中人) 歌の御會の當日となつて主上清涼殿に出御あり、貫之躬恒その他列座する、やがて小町が歌を吟じ上げると黒立は古歌であると云ひ萬葉の草紙を出す、小町は驚き恥ぢながら昨日今日の書入れと見て洗ひて見たいと云ひ、許されて水を湛え草紙を洗ふと果して其の一首丈が墨跡亂れて流れ去り入れ筆である事が顯はれた、黒主は恥ぢ入つて自害し様と云ふから、小町はこれを呼び止め主上も道を嗜む事の深き敬ぞとお許しがあつたから互に遺恨を残さず小町は舞を奏でて、めでたく御會は終はつた。

黒 塚

能野の僧東坊祐慶が奥州へ行脚して安達ヶ原まで来た、日が暮れて或る民家に立寄ると一人の女が居て宿を許す傍にある糸推を見て其の用を聞く、映し入る月光の下に女は車を廻らして糸を巻いて見せながら生死輪廻の理を説き、又糸に縁ある故事數々述べて身の上を歎く、次第に夜更けて寒さを覺えて来たから女は上の山から薪を持つて來て暖め申さうと云つて、祐慶をかへり見て、不在の間に闇の中を見給ふ心あり氣に言ひ置いて出て行く、(中人) 従者の能力(狂言)が密かに闇の中を窺ふと夥しい人間の死体が積み上げられて居るので仰天して祐慶に告げ共にこの家を逃げ出す、果して鬼女が追つて來たから五六明王を念じて一心に祈ると、鬼女も遂に力を失つてにげ去つた。

鞍 馬 天 狗

鞍馬の東谷の僧達が西谷からの招きにより、稚兒達をつれて花見に行く、その楽しい花見の座へ見知らぬ山伏が推参したから花見の八々は去る、跡に唯一人の少年が残つて山伏をいたはる、山伏はこの少年が義朝の子沙那王(即ち牛若)である事を知りいろ／＼力を添へ慰め、自分は大天狗であると告げ、平家追討の大事を傳へようと明日を約して別れる(中人)牛若は勇ましく出立ち薙刀を肩にして出かける、大天狗も静々と現はれて牛若が武術を賞じ昔張良が黄石公の武に堪えて兵法を授つた故事を語り今こゝに平家を亡ぼすべき大事を残さず傳へて且今後も常に影身を離れず力を添へるご勵まして大威力を示し梢に翔つて姿を消す。

狂言梗概

末廣

或る大名が吉例に依り主客に末廣を進上すべく之を求めに太郎冠者を都に使はす、末廣を何なるか知らない太郎冠者は都で心のよくない者より古衆を末廣じやと偽られ求めて歸る、大名立腹して其の不行届を怒る、太郎冠者早速都で教へてくれた御機嫌を直す難物を始める、大名も終いに其難物の面白さに浮れ出す。

口眞似

或る主が他家より酒肴を貰て一人でたぶるも面白くない、誰か適當な人をお連れ申せと太郎冠者に言付ける、太郎冠者上ノ町の或る大酒家を連れてくる、主當惑して太郎冠者に自分の言ふ様にする様にせよと命するが太郎冠者勘違をして、とんだ失敗をする。

朝比奈

地獄の主エンマ大王何か良き得物はなきかと六道の辻へ出て待つ、かゝる所へ朝比奈三郎来る、大王直ちに秘術をつくしてせめたるもキツクとも動ぜず、大王誰かと問ふに朝比奈なる事を知り驚く、朝比奈和田合戦の有様を語つて聞かせ、終いに大王に自身の戦道具を持たせ極樂浄土へ案内させる。

貰賀

酒任人の主人有り、或る日も大酒を飲んで歸り、女に無理な事を言ひ追出して仕舞ふ、女は泣く泣く親里に歸り此の旨を父親に話す、父親始めは色々女に意見をして歸さうとするが、どうしても女嫌だと言ふ、やがて酔がさめて賀が詫びに来る、父親は娘を歸すまいとする、娘は陰で子供の事を聞き、こらへかねて歸ると言ひ出す、終いに兩人して父親を投出して手をたすさへ逃げ歸る。

花子

殿座禪をすと言ふて女房を騙し暇を貰ひ、太郎冠者に袋をかぶせ身代り座禪をさせておいて、花子の許に逢ひに行く、女房は座禪の庭に来り、それが太郎冠者なる事を見出し、いたく驚き且委細を聞き太郎冠者に代つて袋を被り殿の歸りを待つ、夜明方殿は小歌がよりて歸り、袋を被りたる太郎冠者と信じ花子に逢つた様子を面白おかしく語るやがて袋を取ると女房だつたので驚いて逃げる、此の狂言は「釣狐」と共に非常に重い習ひ物で齡五十を越えなければ勤めさせない事になつて居る相で、演者長田安吉氏は今回が初役であります。

井碓

或る勾當が弟子菊市を連れ都へ上る途中、橋のない川がある、困惑の後礫を打つて深き淺きを聞き出し菊市に負ひ越せと命じ、其の支度中、川向へ行く目明がきて菊市に負はれて越す、斯くの如く目明が色々勾當をなぶる終いに勾當目明の居た事を知り非常に怒り追込む。

瓜盗人

或る百姓が丹精こめて瓜を作り、見事な出来に喜んで居たるに翌日見廻て行きたるに瓜を盗まれ、大いに奮慨し案山子を作り歸宅した又翌朝見廻に行きたるに瓜を取られたる上瓜莖まで揚げてさんくな態で今度は自分が案山子に成り瓜盗人を捕へる。

蟹山伏

山伏は能力を連れて大峰に修業歸途、蟹に出合ふ、能力之を打たんとして耳をはさまる、山代祈つて離さんとす中、又はさまる、然して蟹何處へか逃げて行く。

祝

祭

禮

御表装所

百華堂

ガラス
多古多屋分店
電話三二四番

星川材木店
電話三九番

ラチオと電気具
辻村商店
電話三四番

パンと菓子

今岡本店
電話三二五番

洋品雑貨
大古多屋洋品店
電話七三番

日用品の御用は
雑貨
不鏽屋商店
鈴木章三

化粧品と玩具
小間物
三久商店
坂巻丹次郎

丸善サイダー
製造元

柴田商店
電話二四一番

食料品問屋
永田屋商店
電話四六番

化粧品と小間物
正中商店
中山忠

菓子と宇治茶
豊壽園
電話一〇番

平田彰

金物一式
柿田屋商店
電話二七〇番

味噌たまり
吉良屋商店
電話一一七番

ボール箱製造
箱庄商店
電話二〇一番

祝

祭

禮

下山洋服店

御婚禮用品荷揃
ふごんは佐野
佐野綿店

中野薬店

薬、化粧品
の御用は

八漆器店
電話二二四番

佛事慶事引菓子

太田屋本店
田町橋際
電話二二四番

金子齒科醫院

光明麥
廣部商店
電話三二六番

米穀卸小賣

穀正商店
電話二二五番

印章彫刻

伊丹印鋪
山崎功

靴製造修繕

安形靴店
電話二二五番

靴製造修繕

山幸靴店

帝國タイヤ店
田町橋際

くすりと度量衡器

白長田利七藥局
電話六一番

三河配給所
渥美ノ自轉車
安藤商店

うごんそば井物

東京庵
電話二五七番

キハツは日石
貨物の御用は

自動車部
田町橋際